



横浜陶芸友の会だより

第 176 号

令和 2 年

7 月 1 日発行

「免疫力アップ」で新型コロナウイルス禍を
乗り切りましょう！

横浜陶芸友の会 会長 高橋光男



新型コロナウイルス問題
がなかなか落ち着かない
状況が続いており、気が
抜けない日々が続いていますがいかがお過ごし
ですか。

世間では大勢が集まるイベントの中止や延
期が相次いでいます。

横浜陶芸友の会には重要で外せないイベン
トに総会と作品展があります。

総会については、新型コロナウイルス緊急事態宣
言が 4 月 7 日に発出されてから 7 週間以上の
の休館や中止・延期をしていた市民利用施設
が緊急事態宣言の解除を受けて 6 月 1 日以降
再開されましたが、ウイルスは完全に終息し
ておらず、会員の皆様の命と暮らしを守るた
め、先ずは役員会において、元年度決算及び
2 年度予算案の書面表決を行いました。
その結果役員全員賛成の返事をいただきました
ました。

総会については行政の指導により多数参加
の会合がございませんので、会員皆様方に同
封の書面にて書面決議をお願いする次第です。
送付先及び締切については同封書面にて確認
をお願いいたします

作品展につきましては、新型コロナウイルス
問題で会員皆様方の作陶の環境等に鑑みて、
事業部と協議してアンケート等で方向性を決
めていきたいと思っておりますのでよろしく願
いいたします。

アンケートの送付先及び締切については、
会報の「作品展」アンケートの欄をご確認の
上、回答をお願いいたします。

上記 2 件の結果報告は次回発行の「友の会
たより」に掲載いたします。

いつこの状態が終息するのか先が見えませ
んが、うがい手洗い等を徹底して、免疫力 up
させて乗り切りましょう！

「総会」に代わる書面決議 議題

- 令和元年度決算報告 (会報 2 ページ)
- 令和 2 年度予算 (案) (会報 2 ページ)
- 令和 2 年度役員 (案) 同封プリント 参照

同封された

令和 2 年度 横浜陶芸友の会 総会開催
(書面表決)のお知らせ

をよくお読みの上「書面評決」を
よろしく願いたします。

第四十一回「作品展」 事業報告

会員皆様方のご協力をもちまして「第四十
一回作品展」も無事、終了することができま
した。ありがとうございます。

心配していた出展者数も昨年とほぼ同じに
なり少し安心いたしました。

皆様元気で作陶に励み出展されこれから
も「作品展」が続くことを期待しています。

【事業報告】

- (会期) 令和 2 年 1 月 14 日(火) ～ 19 日(日)
- (会場) かなつくホール ギャラリー A
- (来場者数) 402 名 (昨年 359 名)
- (出展者数) 21 名 (昨年 24 名)
- (養護学校) 1 校 (聖坂養護)
- (出展数) 359 点 (養護・特設数含む)
(昨年 240 点)
- (特設コーナー) 「一輪差し」 21 点
- (懇親会参加者数) 11 名
- (芳名帳カード記入者数) 186 名 (昨年 167 名)
- (その他)

○来年度の特設コーナーの課題は「片口」
(事業部)

2019 年度決算書・2020 年度予算書（案）

専修部【焼成コーナー】メインテーマ「鼠志野」焼成作品



志野白土 鬼板化粧掛 長石釉 ガス窯 還元焼成

『今年度秋期焼成会』について

専修部

この何年か「テーマ」を決めての焼成会を企画してきました。普段自分では作らないもの、あるいは作りたくてもできないものにチャレンジしてみようと試みてきました。今年度は自由に「焼成会」を利用して頂き、専修部保存の釉薬をかけてもいいし、又自分

で持ち込んだ釉薬で焼成することもできます。ただ、電気窯ですので基本、酸化焼成になります。作陶しても焼成できない方にも対応できるように考えました。

【秋期焼成会日程】

(受付) 9月27日(日) 10時
(場所) 技能文化会館

※その後の日程は、7月中旬の抽選にて決定いたします。

今年度「作品展」へのアンケート

(担当) 事業部

新型コロナウイルスの影響で、「役員会」や「総会」も開けないまま「作品展会場」の申し込みが迫ってきました。

事業部としては、今まで通りの1月開催で「かなつくホール」への申し込みを致します。しかしながら、先の見えないこの情勢です。会員の皆様に今年度の「作品展」に関しての御意見やご希望のアンケートをいただき、事業部として検討し、役員会等に図りながら結果を皆様に報告したいと思えます。よろしく、ご協力ください。

「作品展」アンケート

- 一、今年度の「作品展は」？
①中止する ②開催する
(ご意見)
- 二、1月に開催した場合、作品は？
「出展」 ①できる ②できない
(ご意見)
- 三、「作品展」に関する、ご要望

(氏名)

【アンケート回答 送付先】

○メールかハガキで送付をお願いいたします。

(メールアドレス)

(住所)

【アンケート集約締切】

令和2年7月25日

※皆様からの回答を心よりお待ちしております

特設コーナー「一輪差し」
一品一品紹介いたします



古河内滋子
「練り込み」

土に白化粧土を刷毛目をつけ土灰粧をかけ、ガス窯で還元がかかった物だと思えます。
徳利のつもりで作りましたが、我が家では、もっぱら一輪差しとして活躍しています。



松崎紀一

陶芸を始めた初期の作品です。
土や釉薬は記憶にないですが、たぶん茂木の



「聖坂養護学校」生徒作品

『第41回 作品展』紹介①
今回も出展者全員の出展作品を、ご紹介いたします。思い出しながらご覧下さい。
お話や原稿をいただいた皆様の御協力、誠に感謝いたします。
一度に掲載できませんので、3回に分けて掲載する予定です。



深川貴子
益子に行って電動ロクロで引いて作った物です。
もっと高く細く作りたいのですが...



吉川 勝



大日方 毅
「透明釉 越前土」



池見千枝子



徳植美和恵
「練り込み」



井上 明



貝森俊司



鈴木貴久



逢阪博樹
「赤土 白萩釉」



石川光子
「信楽土・穴窯 焼成・自然釉」



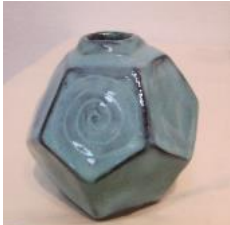
下村武子



吉良 謙



鈴木和子
「みかげ黒土 白マット 灯油窯」
この青色は灯油窯の強還元で出たものです。灯油の煙を出しながら焼きました。



吉村希世子
(黒泥 電気窯 緑釉)
五角形を12枚作り貼り合わせるのですが下からしっかり貼りつけました。
一度で作らないと崩れるし乾くので大変でした。



高橋光男
ラップの芯に新聞を巻いて板作り
穴窯焼成です



本橋昭彦
「信楽白土・石目 ルリ紺 うのふ釉 電気窯」



川島幸子



鈴木早苗



鍋島弘義
「色粘土 白マット」

「今年の作品」

深川貴子



焼成は「電気窯」
湯呑(柄) : 信楽土 黄瀬戸釉・下絵具
犬 : 笠間土 ミルク
茶碗 : 信楽土 3号灰釉・下絵具

・この犬は我が家のチワワがモデルです。お香立てのつもりで、目や耳から煙が出ればいいかな?と、思ってた作りでした。しかし、これを見た人から「お花を活けてもいいよね。中にライトを入れてもいいかも」と言われ「それもいいかも知れない」と思いました。いつもは我が家のカウンターのの上に置いてあります。

・茶碗と湯呑は下絵具の色見本として使っています。湯呑の縁の色は赤、緑、青で塗り黄瀬戸釉を掛けてあります。



焼成は「電気窯」
中皿(黒白) : 笠間土 黒釉・チタンマット
中皿(白緑) : 笠間土 チタンマット・銅釉
大皿(青) : 笠間土 なまこ釉
湯呑(黒白) : 笠間土 黒釉・チタンマット



小皿(茶) : 笠間土 鉄赤

・出来上がりは思っていたより小さくなりまりました。下に敷いてある布も手作りで染めてあります。

「今年の作品」

松崎紀一



「少女 A・B・C」 赤津土
織部釉・カナリヤ黄+透明釉
電気窯 酸化焼成
「シリーズ野仏」
越前土+信楽赤土
電気窯 還元焼成



「少女 A」
~春の訪れ~

(作者のつぶやき)
乙女心はわかりませんが、少女像を作っていると乙女のような人間模様や、声にならない思いが、ちよっとした表情に込められるといいな〜と思って作っています。

・その他の作品は、学校にロクロが無いので夏休みに「笠間陶芸の丘」で合宿を行い作りました。釉薬は指定して掛けてもらいました。



「少女 C」
~光る海~

「少女 B」
~月明り~



「自尊菩薩」

(作者のつぶやき)
私は、地藏を作り続けています。仏様の願いとは何だろう?と、言う問いかけから生まれたチビ地藏です。とことん自分を応援してください。



「念ずれば花ひらく B」



「念ずれば花ひらく A」

かつて、四国に坂村真民という詩人が。その人の詩集に『念ずれば花ひらく』というのがあり、野仏を作るきっかけになりました。

陶陶さん

第 98 号

あかほし



ホームページもチェック!!

横浜陶芸友の会

検索

<http://www20.atpages.jp/tomonokai/>

横浜陶芸友の会だより
第 176 号

(令和 2 年 7 月 1 日発行)

三十余年来の古い友の会のお仲間でした。広報部長を長らくされて、役員会では独自の風貌で飄々と大声で発言されていた記憶があります。

作品展では細かい手法の武将や偉人、動物等の像を出展されて居られたと思います。

吉村希世子

「金子勝寿さんを偲んで」

横浜陶芸友の会 元広報部長を
された
金子勝寿様が 令和元年 10 月に
97 歳で逝去されました。
ここに謹んでご冥福をお祈り
するとともに
お知らせ申し上げます

訃報

友の会をやめて地域で活躍もされていたと聞いて居りました。心よりご冥福を祈ります。



古河内滋子さんの作品

【編集後記】

・家に居る時間が増え、スピーカーエンクロージャーを陶器で作りました。思いの外、綺麗に音が出、焼き物の思わぬ効果です。タイムドメインと言うのだそうです。暮れまでに付属品を焼きあげるつもりですが、コロナも妙な物を作らせました。

(季楽軒)

・新型コロナ禍の中で自分の作品作りが進んだ方、これから頑張ろうという方もいらっしゃるかと思いますが、来年の作品展が無事開催されることを祈るばかりです。

(大日方)

・「会報 4 月号」を出すべく準備を進めていたが、コロナの影響で役員会の延期に次ぐ延期。そしてメールによる「書面評決」という初めての審議。さらに「総会」中止による会員での「総会開催」(書面評決)と、一度も顔を合わすこともなく、今日まで来てしまいました。(同封のプリント参照)

会報には事業部からの「作品展アンケート」も掲載されています。

今後どうなっていくかはわかりませんが、皆様の知恵とご協力によりこれからの「友の会」の在り方を考えたいと思います。

(鍋島弘義)